傳寶四合原氏

三十

特別
へ13
4274
30

91-2361

傳奇四 舍源氏

三十番とよみ

くもゐびとつくるなさてしらくもうつるもさん

[illegible]

夫良工の家宅作るや先その材の多少を任せ長ものは棟とし梁とし大あるは柱とし枕とし短は桁とし楮とし細は椽とし桷とし其後[illegible]乃至簀子等の小作に後是を家と[illegible]

いへが如く。作文の躰又是如し。和文の本末。學とは竹もまた。請合增侍の源氏の間五十四帖の廣長なる柱印のいろはさへ。めぐらす書うる鋏釘の折を乖て去つけ大工の手際なる如く大帳場。てくるとも文廻し。語格の曲尺を原来知らず。他の下墨下振みなもつて曲るうて先二十三帖まで違てあんとれど實の形代源氏のるめへ似もせるぞ。画樣ぐろうへ大造ゆえ。壁言べ麻木る宮殿を營ゝ。蜀黍かゝみて樣閣を組あげるゆ異るうれば漸近づく。春の名の玲虫螢の光龍もせんと不用の工夫百を今更悔忘。

天保十年巳亥正月　柳亭種彦

赤松高直の女
鶴音
夕霧太改名
足利雲井之丞氏仲
冠者の君と稱す

源氏五十絵

紫式部作　歌川豊国画

夢が物語ふ合せそ例の昔のさまを
西せくるあり第二編目三冊めの表よりうぐき侍るうり

つゞき
光氏

山

光

東都秉木園宗匠校輯

俳諧芳帙集　全二冊　板

俳諧叢菊集　全三冊　追刺

東都秉木園宗匠校輯

俳諧　今人附合集　全四冊

新國板

俳諧　今四歌仙　全一冊　新刻

俳同輯　諸　七人叢白集　岡板出来

田舎源氏文箱　たゝう入　上仕立

河手慰袋入　小繪さうし　種彦聞書　貞秀画圖

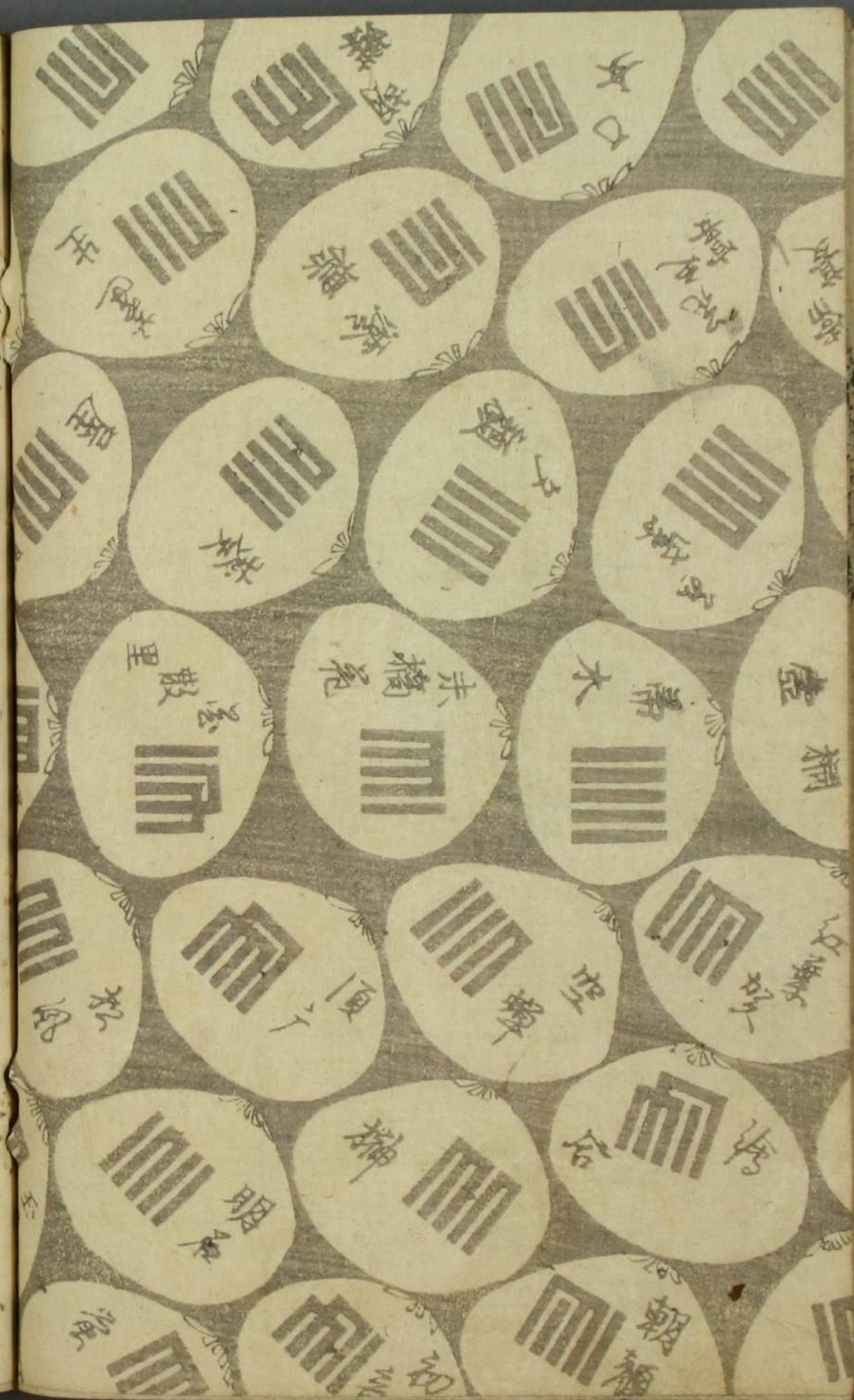
昔火焚ぞうア　全三冊　昔さちもんく　全三冊

昔茶番のいろは　全三冊　昔浦島爺　全三冊

江戸御暦開板所

鶴屋喜右衛門

四谷原付
籠彦作
国安画
三十編下



四合けん

四月

雅彦作

巻こみ帙

下冊

鶴屋

板

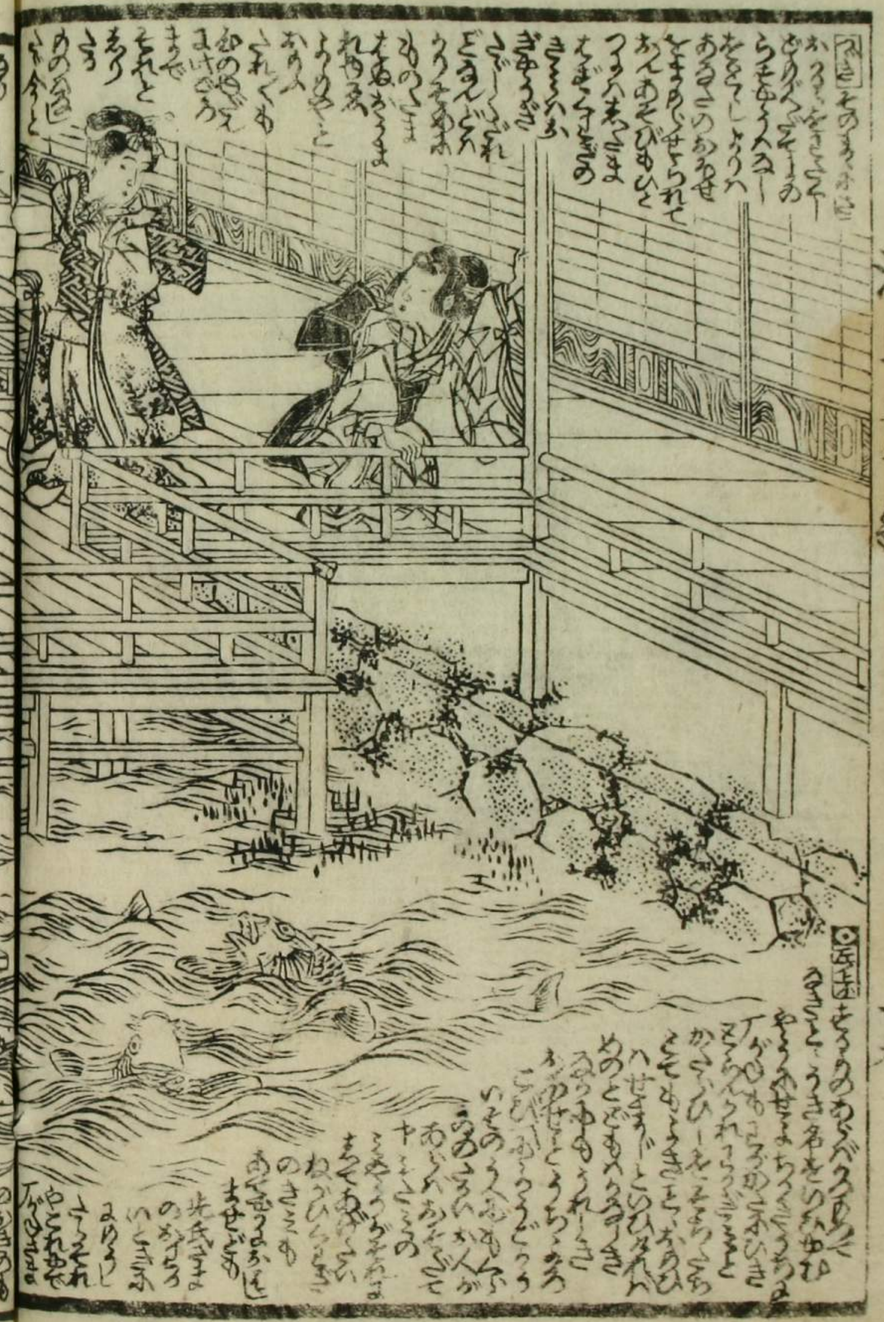
三

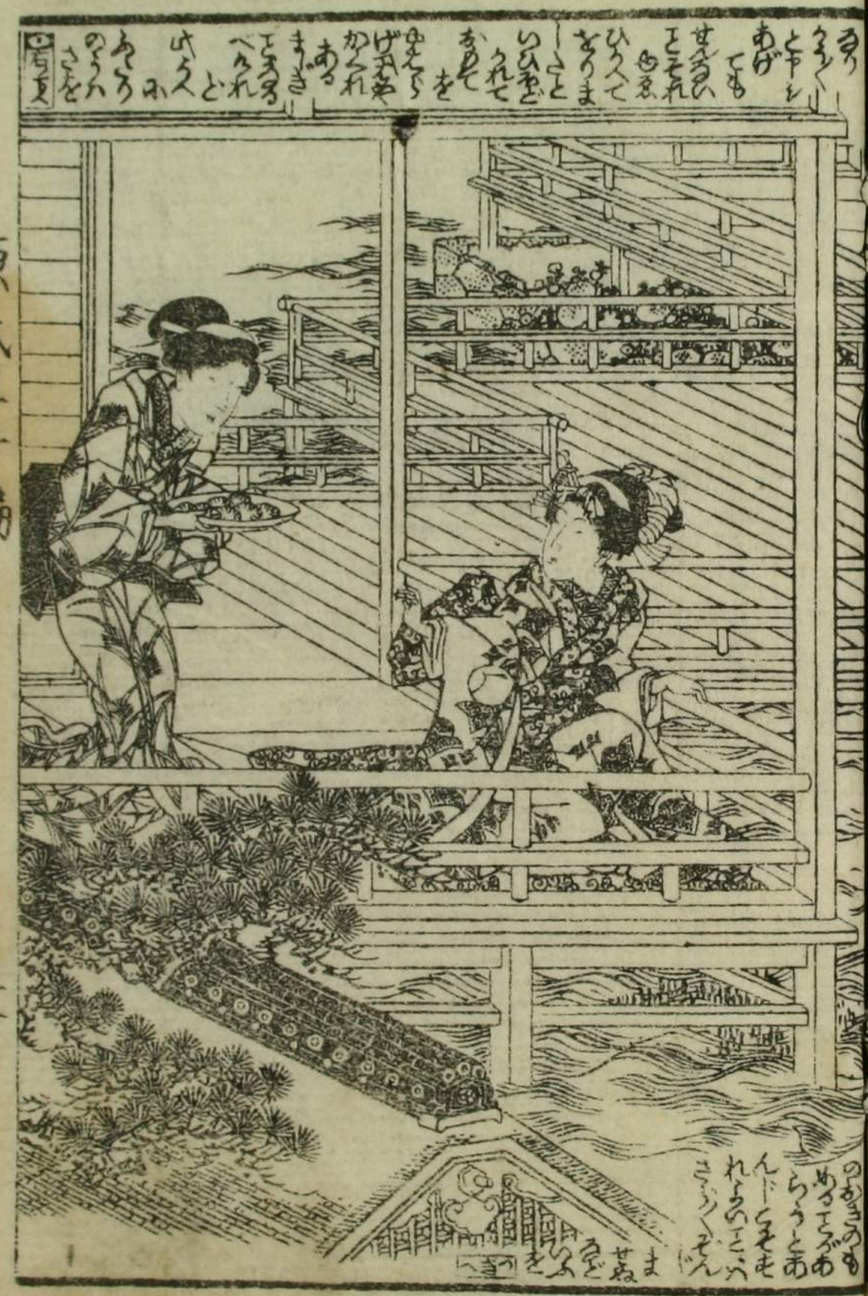
母のたゆく世をさるそ祖母のゆれそぢーまごめハ▲いつまでもかとゆあづけめるゆ
ひとうそもゆうぞやくまそむげのようるがいとあわ
そのゆえをいろんとりみよりぶるをそぎてーとろと
かそろそーさーとさんきそのくうもくろり又ゆのの
るさーめるろーとそーとさーよいとやーくあまやー
ふよりーまどめるるーとあーんぎろうのあるとちせられ
ありとらもそそをせもそるぶまくーさせあくーり
くーめろうゆいるまるるりされバるるひるとぐまろん
ろりきのさくをろろくーくーどとさるるそめゆうゆ
ゆそるもそのさまを光氏ハりをさまひてかゆあぶをゆ

☒せんと
りのあさ
ざろをを
さまを
さんとそ
まろら
それろ
ひんがの
やくさ
ゆくて
ぐんゆの
ざろうを

かんとろて
氏仲とこれ
ろり名のらせ
ごまひろりさて今
まそのぐゆんの師を
さるゆんゆーぶされど
るとひろくまるひー
めのをえーびいぶーんそ
こせてんはをゆそ小学ま
いりーりんひぶりのーちも
ゆりさーいぶくやるゆ名
さるまぶ為ーやのきせを
えらぶをそーるびゆるを待
とりんりせぶんをかーせ
ぶくやきをとろりんと
その月ぐさぶめて〔つぎへ〕

左





國貞画 種彦作

美艶仙女香

黒油美玄香 南傳馬町三丁目西側 坂本氏製

天保十年己亥初春新彫

美艶仙女香 四十八銅

黒油美玄香 南傳馬町三丁目西側 坂本氏製

書物 錦繪 扇 地紙 問屋 江戸通油町 鶴屋喜右衛門

偐紫田舎源氏 柳亭種彦作 歌川國貞画
尚来世八編を三十三編を両板和彩ごとに発兆絶年希代

楠一代記 五冊 烏有山人作 歌川國芳画

百人一首稚講釋 山東京山作 八冊 歌川國虎画

清盛一代記 五冊 烏有山人作 歌川國芳画

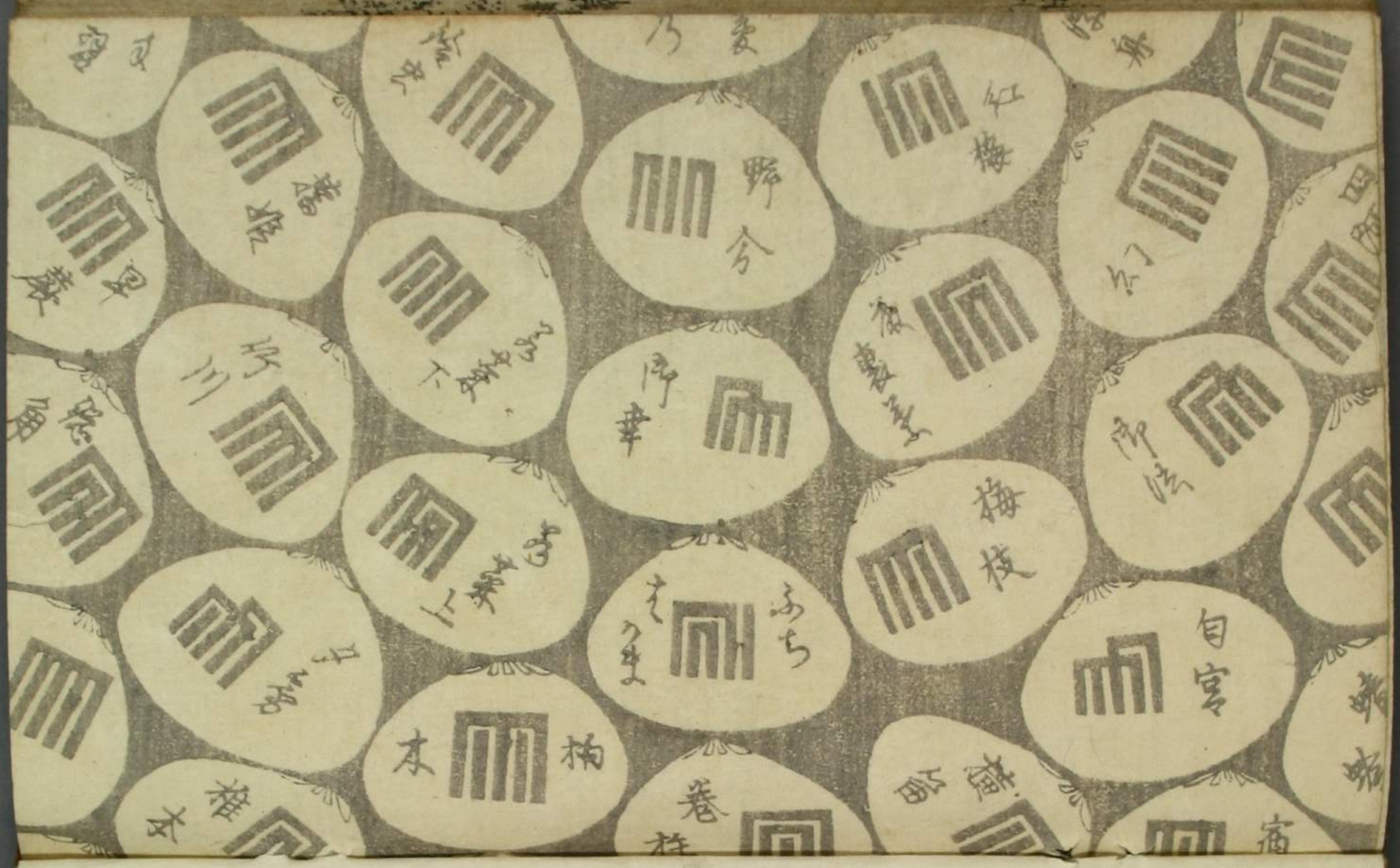
佐野渡怨敵懸橋 緑亭仙橋作 全六冊 五雲亭貞秀画

櫻風呂花半開 白雲洞主人作 全四冊 五雲亭貞秀画

藻塩艸須磨書替 松下樓麓谷作 全四冊 五雲亭貞秀画

無筆節用似字盡 曲亭馬琴作

視藥霞引札 各再板 歌川國芳画


紅梅
野分
梅枝
自宮
柄本
卷柱